

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 12日現在

機関番号：34601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23820076

研究課題名（和文）近世江戸演劇文化の研究—上演記録データベース化—

研究課題名（英文）Research of theater culture in the Edo period

研究代表者

鈴木 博子（SUZUKI HIROKO）

帝塚山大学・人文学部・准教授

研究者番号：80610237

研究成果の概要（和文）：江戸の大名屋敷における演劇上演記事調査を通して、江戸の歌舞伎・人形浄瑠璃に関する正確な上演情報を提示した。さらに、藩邸での演劇文化享受が国元へ与えた文化的な影響について究明した。

研究成果の概要（英文）：The exact performance information about the kabuki and ningyo joruri of Edo was shown by the record of performances in the daimyo's mansion. The enjoyment of play influenced on the local culture.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,300,000	390,000	1,690,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：近世演劇・上演記録

1. 研究開始当初の背景

本研究の前段階として、「近世前期江戸演劇界における文化形成—屋敷方および出版界との関係を通して—」（特別研究員奨励費、17・10061）の研究課題のもと、研究活動を行った。対馬藩・鳥取藩・加賀藩・岡山藩などの藩政史料から多数の上演記録を収集することができた。抽出した情報を基盤として研究を進めた結果、演劇史に新事実を指摘し、文化史の把握にも有効であることを実証している。特筆すべき成果は以下の3点である。

(1)人形浄瑠璃史研究の基礎的事実の指摘
江戸を代表する浄瑠璃太夫土佐少掾のテ

キストについては、土佐少掾没後の刊行とされてきた。これを土佐少掾の上演記録を確認することによって没年考証を行い、土佐少掾生前の刊行であることを明らかにした。

(2)歌舞伎界における座敷芝居の意義

江戸の藩邸で歌舞伎が上演されていた実態を明らかにし、役者にとって座敷芝居がどのような意義を持っていたかを考証した。屋敷方を専門に活動する役者の実態や、芝居町の役者にとっての座敷芝居の位置づけについて解明した。

(3)武士の生活における演劇文化の意義
藩政史料を調査する中で、武士の私的な記

録を見出した。藩士個人の演劇文化に対する関心や享受について、具体的に考証した。

2. 研究の目的

本研究は、近世の江戸演劇文化がどのように形成されたのか、多角的に解明することを目的としている。芝居町と座敷芝居における人形浄瑠璃と歌舞伎の上演実態を考証するとともに、武士を中心とする観客がどのように享受していたのか、その文化的意義も明らかにする。

研究の基礎となるのが、上演記録から抽出される正確な情報である。これらの情報は演劇研究および文化史研究の基盤として重要であり、研究者間で共有されることが研究の発展に大きく寄与する。そのため、データベースを作成して、利用に供することを目的としている。

具体的に目的とするのは以下の2点である。

(1) 元禄期江戸演劇文化の解明

鳥取藩士森藤十郎の私的な記録「覚書」(鳥取県立図書館所蔵)は元禄13年から14年にかけて江戸詰となり、芝居町の歌舞伎へ出かける事例などを記している。これを資料として、歌舞伎の番付、狂言本の情報や、役者の動向など、演劇史において重要な事柄が解明される。

さらに、元禄期に活躍した和泉太夫の正本「蟬丸」「三国名剣てつせん花」(ニューヨーク・パブリックライブラリー所蔵)の調査により、金平ブームの次代を担った浄瑠璃座の方向性を把握できる。

(2) 近世演劇上演記録データベース化

人形浄瑠璃・歌舞伎を中心とする近世演劇研究において、上演記録から得られる正確な情報は重要である。上演記録データによって明らかになることが期待できるおもな3点、①浄瑠璃太夫・人形遣い・役者の動向、②テキストの資料価値、③演目の初演時期は、いずれも研究の基盤となる事項である。

本研究の成果をデータベースとして、他の研究者が利用できる形で提供することを目指し、データ内容の確認と検索機能などに関する加工を行う。

3. 研究の方法

(1) 演劇上演記録データの収集

加賀藩・岡山藩・対馬藩・尾張藩・岩国藩に関する資料調査を行う。上演記録を抽出するとともに、それぞれの文化史の背景を理解するための情報を収集する。

歌舞伎・人形浄瑠璃の上演および関係記事を収集し、それぞれの記事について状況や意義を正確に把握して、情報を積み重ねる。

(2) 個別資料の精査

鳥取藩士の日記「覚書」について、資料の性質、内容、関連する事象、背景などを把握し、情報を位置づける。記事を通覧し、解釈していくことで、地方武士の生活における演劇文化との関わりと江戸生活体験の意義をとらえる。

和泉太夫正本「三国名剣てつせん花」は女性登場人物が重要な役割を担うという点で、和泉太夫座における画期的な作品である。その意義と方向性、時代的背景について精査する。

(3) 上演記録データベースの作成

調査収集した上演記録のデータを整理する。独自の調査で収集したデータと、従来の先行研究によって蓄積されてきたデータを統合し、通覧できるように整備する。具体的には、まず年次順に上演年月日、上演場所、演者、演目名、関係記事内容、資料名を統一した書式で示し、体系化する。

さらに、テキストデータとして入力した上で細分化した情報ごとに区切り、検索可能なデータベースへ加工する。

4. 研究成果

(1) 演劇上演記録データの収集

①岡山藩の「日次記」(岡山大学附属図書館所蔵)の再調査を行い、演劇上演記録の抽出について、精度を高めた。これまで演劇関係の記事に限定して複写していたのを、「日次記」全体を複写して手元で通覧できるようにしたことにより、前後の記事や全体の経緯を把握することが可能になった。

②長崎県立対馬歴史民俗資料館での調査を重ね、江戸藩邸における表書札、奥書札の日記を通覧した。奥書札による記事には演劇上演された際に番付が記載されるケースも多く、豊富な情報を得られた。さらに参勤交代での移動時を記録した海陸日記、また、藩主の生母が静養に出かけた際の記録などにも、都市演劇文化を享受した事例が確認できた。

対馬藩の上演記録の一部は、翻刻紹介を行った。

③加賀藩の史料について、追加調査を行った。元禄期を中心とする調査を行ってきたが、さらに範囲を広げることにより、明和・安永頃にも江戸藩邸では大がかりな歌舞伎が上演されていたことなどを確認することができ

た。

(2) 元禄期江戸演劇文化の解明

① ニューヨーク・パブリックライブラリー所蔵の江戸和泉太夫正本を調査した成果を、本研究で作成した上演記録データベースを用いて検討した。江戸の和泉太夫座が女人形の効果を計算していたことを推定し、新たな方向性を模索した動きを指摘した。その成果は「時代浄瑠璃の女性登場人物」として、シンポジウムで発表し、共著『アメリカに渡った物語絵』にまとめた。

② 江戸の大名屋敷における芝居の享受について、対馬藩の事例を中心に、上演記録データを用いて考証した。藩主の正室や他家に嫁いだ娘といった、大名家の夫人が上演のキーパーソンとなっていたこと、また江戸屋敷で上演される際の舞台の実態について解明し、論文にまとめた。

(3) 江戸演劇文化の国元への影響

① 岡山藩において、江戸藩邸お出入りの歌舞伎役者が岡山に下向して、東照宮祭礼の芸能の指導に当たった事例に着目した。藩主綱政の意向や、国元に与えた文化的な影響について考察した。

② 対馬藩の資料を検証し、藩邸を中心に享受された江戸演劇文化が、国元にどのような影響を与えたかを解明した。藩邸の記録だけではなく、国元の表書札、奥書札の日記類もあわせて調査することにより、藩邸で観覧された人形操りの演目が、小姓によって国元で上演されている事例を見出した。これらを検証すると、隠居して江戸を離れる元藩主の動向と重なることが明らかになり、元藩主の指示によって、江戸演劇文化が国元へ運ばれたと推定できる。

③ 鳥取藩士の日記や、加賀藩士の記録類を考証すると、地方の藩士たちが、江戸の演劇文化に高い関心を寄せていた傾向が読み取れる。鳥取藩士森藤十郎は江戸詰になった際、まず上士に芝居町へ連れて行ってもらい、その後は自分自身で月一回の頻度で出かけている。また、藩邸で上演される人形浄瑠璃や歌舞伎についても番付等を記録している。加賀藩においても、国元にいる藩士が、江戸藩邸で催される歌舞伎に関心を寄せ、上演された番付の写しを取り寄せた事例が指摘できる。こうした事例から、武士にとって、近世演劇が、国元にはないもの、都市でしか観覧できないものとして、都市文化の中でも特に高い関心を持っていたことが窺える。

上記のような関心が、国元における芸能に与えた影響についても見通しを得た。

(4) 上演記録データベースの整備

収集した上演記録データを年次順に整理して入力し、上演場所、上演の目的、演者、演目、記録の本文などの項目で区切り、検索可能な形に加工した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

① 鈴木博子、大名屋敷における芝居享受—対馬藩宗家を中心に—、帝塚山大学人文学部紀要、31号、2011、pp43-52

② 鈴木博子、対馬宗家文書『江戸藩邸毎日記』歌舞伎・浄瑠璃等上演記事、演劇研究会会報、38号、2012、pp49-74

[学会発表] (計 2 件)

① 鈴木博子、時代浄瑠璃の女性登場人物、国際研究シンポジウム「日本の視覚文化」、2011、コロンビア大学

② 鈴木博子、古浄瑠璃における軍記の利用方法、公開シンポジウム「文化現象としての源平盛衰記」、2012、國學院大學

[図書] (計 1 件)

① 鈴木博子、共著、ペリかん社、アメリカに渡った物語絵、2012、時代浄瑠璃の女性登場人物、pp206-216

[産業財産権]

○出願状況 (計 1 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 1 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 博子 (SUZUKI HIROKO)
帝塚山大学・人文学部・准教授
研究者番号：80610237

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：